

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475500765
法人名	社会福祉法人 仙台白百合会
事業所名	グループホーム さちの家
所在地 (電話番号)	宮城県仙台市泉区本田町20番7号 (電話)022-218-3024
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年2月22日

【情報提供票より】平成20年2月22日

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人 非常勤 1人 非常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	81歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙台徳洲会病院 ・ 仙台循環器病院センター
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人 仙台白百合会高齢者福祉複合施設カリタスの丘の敷地内にあるグループホーム「さちの家」は開設から4年目となる。入居者が自分らしい生活を送るには地域の関わりが大切と認識している管理者は開設準備段階から地域住民に働きかけたり敷地内に遊歩道を造り大学への通学路、散策コースとして提供している。定期的にボランティアを受け入れたり、四町内会と相互協力協定を締結するなど地域との関係性が良い。パーソナルケアを基本方針に入所者の状況把握をし、それに向けた日常業務は職員の学びの場である。内外研修、自主研修に参加し自己研鑽している。入居者の立場でより具体的なケアをして入所者の意欲を引き出し生活しやすい環境を整え支援している。入居者はとても生き生きとして明るく自分の生活の場として過ごされていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は特に無かった。一時的な評価だけに留めずより質の高いケアを目指し、管理者、職員は必要に応じた委員会を立ち上げ随時検討会を開くなどして取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は日常生活の中で常に振り返り、より良いケアをするよう考え取り組まれている。その取り組み状況を評価にまとめたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に実施しており、入居者にも参加を促している。行政に対しても、今後参加要請をしたいと考えている。サービスの取組状況の報告、日常の課題を提案し意見を聞き、サービスに取り入れている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を置いているが、家族は面会、家族懇談会時に気軽に話をしてくださる。入居者の体調や対応の相談をするとそれに伴ったアドバイスをいただいたり、記念日の贈り物、季節の変わり目に衣類を家族並びに職員と選びに出かけたり臨機応変に家族の意見に応じている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームで夜遅くまで明かりが点いていると近所の方が心配してくれたり、ホームで採れた野菜をお分けてしたりしている。子供達が犬やウサギを見に来たり、ドライブや外食に気軽に誘い合うなど近隣との関係も良い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「命の尊さ、大切さ」を基本に開設当初より地域の関係性を重視し、職員は日常生活の中で常に考え、パーソナルケアを心がけたサービスを提供し、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう作られた独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示されており、管理者からも具体的な説明があつて、職員は理念を十分に理解している。より良いケアを目指すべく必要に応じた勉強会や、実践に向けた施策を講じ、理念を共有する為に日々取組まれていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで夜遅くまで明かりが点いていると近所の方が心配をしてくれたり、ホームの畑で取れた野菜を分けたりしている。、子供達が犬やウサギを見に来たり、ドライブや外食に気軽に声をかけ誘い合うなど近隣との関係も良い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	業務に向けた職員の取り組む姿勢の意識が非常に高く、評価を一時的に考えるのではなく常に職員間で研鑽し、振り返りを怠らず、必要に応じた勉強会(高血圧、糖尿病)、サービス向上対策委員会を設置し、定期的に検討会を開き改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され議事録にまとめられている。入居者にも参加を促し、サービスの取組状況の報告、日常の課題を提案し意見を聞きサービスに取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り合ったり、各研修に積極的に参加、認知症実践研修の受け入れ等をしている。	○	ホームの行政への協力体制はあるが、地域に認知症ケアを正しく理解していただく為にも仙台市として地域に積極的ななかかわりをしていただき、ホームを拠点に地域住民が安心して過ごせるようホームとの連携を進めていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	通院、面会、家族懇談会時に利用状況、預り金の明細に承認を得るなどしている。連絡の取れにくい家族には都合の良い時間を聞き電話連絡をしている。体調、状況の変化時はその都度連絡し対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は面会、家族懇談会時に気軽に話して下さる。これまでも体調のアドバイスや入居者の記念日の贈り物、季節の変わり目に衣類を家族と選びに出かける等、職員は臨機応変に家族の意見に応じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者には、どんなに忙しくも手を止めてより深く関わるようにしており、ダメージはないようである。このことは家族アンケートからも知る事ができる。また、開設以来、職員の退職等は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に合わせた内外研修に参加している。「気付きノート」を活用、些細な事でも一人で抱え込むことなく記入する。それをお互いに公表しあい認め合う。次年度に向けて給料体制を変えるべく職員参加型人事制度を取り入れその準備を進めている。働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟している。持ち回りで実践報告会、講習会に参加している。研修だけではなく、近隣施設との交流会として年3回ボウリング、スポーツ大会があり、入居者も応援に駆けつけるなど交流をし親睦を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と話し合いを持ち、面談した職員が中心となり対応、家族とお茶を飲む機会を設けたり、施設から移られる際は職員から情報を得たり、何度かホームを訪問していただき徐々に馴染めるよう工夫し対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの人生を尊重し、仕事、趣味等を各職員が把握しており、生活の場面で発揮できるよう支援している。新聞等で心が痛む記事があれば一緒に祈り心の痛みを和らげたり、靴の揃え方、豆腐作り等を学んだりお互いに支えあう良い関係ができています。		
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、表情から入居者の気持ちを読み取ったり、家族に本人の状況をこまめに伝え新たな情報を得て、入居者の意向や思いを把握し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活の様子、家族、職員の気づきと広範な情報を収集し認知症介護研修東京センター方式を十分に活用し、それに向けた必要帳票類を作成、その人らしく生活がおくる為に計画書が作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスを行い評価して、必要に応じた見直しをしている。入居者の状況の変化時、家族から要請があればその都度見直しを行い、家族に説明をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、外泊の送迎の支援をしたり、居室に空きがあればショートステイ希望の支援も可能である。併設施設の特養ホームの見学や申し込みに繋いだりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で医院を決め、通院は家族、職員が対応している。協力病院と連絡を密に取り合い、受診、往診がスムーズに行えるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常勤看護師の配置、協力医院による緊急往診体制が確保しており可能である。入居時に重度化の対応、看取りの指針を家族にグループホームとして「できる事、できないこと」説明をし同意、捺印をいただいている。18年度よりそれに向けた勉強会を行うなど終末期に対応について職員間で共有し準備を進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居住空間を守る為各部屋には内鍵をつけている。常に入居者の尊厳を守り、行動、言動は否定することなく肯定に受け止め会話につなげる。それにより安心感を持っていただき、信頼感を得る事ができる。記録等も空いた時間に声を掛け合い済ませるなど配慮し対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務に追われていても、常に入居者に向かい気持ちは汲み取ってその日の入居者に合わせた対応を心がけている。外出、外食、レクリエーション等希望があればその都度支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食事は冷蔵庫や食材を見てから決め、時間を見てエプロンをつけて居室より出てこられる方やすでに台所で準備をしている方それぞれ役割に応じて始まる。たくさんの食材を活かし薬に頼らず食べ物でコントロールするよう工夫している。入居者と一緒に和気あいあいとお話をしながら和やかな食卓を囲んでいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも好きな時間に入浴が出来る。夜間浴を希望されている方や好んで入浴剤を入れる方、皮膚に疾患のある方には毎日入浴していただくなど対応している。重度化に伴いリフト、機械浴の導入、特養ホームの浴室の活用を考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お客様を出迎えて靴を揃えたり、お茶を入れたり、広告の紙でゴミ箱を折ったり、洗濯物をたたんだり、食事の準備、片付けと役割があり生活されている。本人、家族より情報を引き出し、さりげない職員の対応の良さと感謝の気持ち、生き生きとした入居者の表情に現われていた。犬、うさぎも飼われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常に行われているごみ捨てや犬の散歩、近所の散策、併設の施設内で開いている喫茶店(毎週水、木曜日)に出かけている。計画を立て遠くまで出かけることもあるが、その日に決めて外食したり、必要に応じた買い物、温泉と外出の機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの意義を理解している。夜9時から朝7時までで玄関、居室(入居者の好みで内鍵)は施錠している。門にはインターホーンがあり、玄関横には犬がいる。職員は常に入居者の状況を把握しており、日中、入居者が近隣を散歩したり自由に出入りできるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人として年数回の避難訓練実施。夜勤帯は同敷地内の施設の応援要請が可能である。緊急マニュアル、連絡網を整備し、備蓄も一週間分用意しており、加給の場合には町内会にも配布、四町内会に割愛すると協力が協定が組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量、排泄をチェック票に記入し、一人ひとりの状態に合わせた対応をしている。献立も定期的に併設施設の管理栄養士からカロリー、栄養バランスについて助言をいただいている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	芝生を敷き詰めた庭、畑が各居室から見える。玄関には花が活けられ、小上がりの和室に雛人形を飾り季節を感じる。白木で設えたホーム内は清潔感があり、自然の採光が入居者に安らぎを与え、居室の前のベンチ、テレビ観賞用に置かれたソファがくつろぎの良さを感じさせる。リビングから直接ベランダへ出て、天気の良い日はそこでお茶をいただくなど全体に居心地よく過ごせるよう工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の前に前職の屋号を貼り付けたり、馴染まれた家具、生活用品、お位牌に花を供えている方、作品を飾ったり、思い思いに部屋作りをされていた。荷物の収納場所が心持少ないように感じられた。透かしのパーティーションがプライバシーの保護と居室への繋がりを果たしていた。		